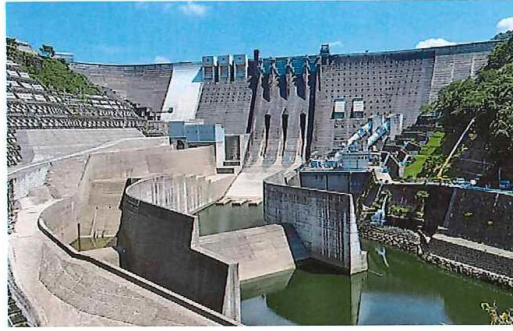


令和3年8月6日（金曜日）



鶴田ダム（足立敏之事務所提供）

7月に大雨特別警報が出された鹿児島県の川内川流域などを同月下旬に視

## 足立敏之参院議員 7月豪雨の川内川視察

### 多重対策の効果強調

察した自民党の足立敏之参院議員が建設専門紙の取材に応じ、さまざまな方法で治水対策を講じる「流域治水」の考え方で事前の災害防止策に取り組み重要性を強調した。川内川では2006年の被災経験を踏まえた治水対策が

### 「流域治水の考え方を先取り」

複数実施され、今回の被害軽減につながったと指摘。「流域治水の考え方を先取りした」と語り、全国各地で同じような多重対策の広がりを見守った。川内川は06年以降、河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）などで河道掘削や堤防整備、分水路整備などを進めてきた。中流部にある鶴田ダムは放流設備を既設より低い位置に増設

し、洪水調整容量を増強。さまざまな対策実施に20年度までに1000億円を超える予算を投じた。

7月の豪雨では12時間雨量が06年の被災時を上回った。それでも川内川本川で氾濫による浸水は発生せず被害を最小限に抑えた。足立氏は「被災後に宅地のかさ上げなど含め、さまざまな手だてを講じたことがポイント」と指

摘。豪雨災害が頻発化・激甚化していることから「この先を考えても、ものすごく大きな効果がある」と話した。山陰地方の各県など7月に記録的な大雨に見舞われたエリアは全国に多い。足立氏は各地の被害軽減に予防的な措置が功を奏したと見る。これまでの豪雨災害を教訓に「壊れたいものを直すだけでなく、改良復旧



川内川の推込分水路を視察する足立氏（同）

しなければならぬ」と基本的な考えを示す。公共事業予算が限られる中、「被災を契機に大規模な対策をしっかりと講じることが再度災害を防止するために大変重要だ」と話した。